

第1学年 道徳科学習指導略案

2 組 計 29人
指導者 坂元大輔

- 主 題 名 みんなとなかよく(B 友情, 信頼)
教材名「二つの ことり」(しょうがくどうとく いきるちから1 日本文教出版)
- 本主題で育成を目指す「未来の創り手に求められる資質・能力」

問題発見力	時に友達と仲よくできないこともあるという事例を自分事として捉えながら、自己の価値観や課題などを見つめることで、「自分の問い」を明らかにする力
判断・形成力	「自分の問い」をもち、登場人物の気持ちを役割演技などで表現し、友達を思うことや大切にすることの喜びを捉えるなど、自分の考えを形成する力
創造力	自分を登場人物に置き換え、友情、信頼における内容を捉えたり、他の内容項目と関連付けたりして、「自分の問い」への新たな考えを創り出す力
振り返る力	友情、信頼における「自分の問い」への大切な気持ちや考えを見いだし、これからの学習や実生活に生かそうとする力

3 ねらいとする道徳的価値について

(1) 指導内容についての基本的な立場

友達は家族以外で特に深い関わりをもつ存在であり、共に学んだり遊んだりすることを通して、互いに影響し合って関係が構築されるものである。また、世代が同じ者同士として、似たような体験や共通の興味、関心を有することから、互いの考え方を交え、豊かに生きる上での大切な存在として、互いの成長とともにその影響力を拡大させていく。友情、信頼は、友達関係における基本とすべきことであり、友達との間に信頼と切磋琢磨の精神をもつことに関する内容である。本主題では、友達を思うことや大切にすることの喜びについて考えることで、友達と仲よくすることや助け合うことの大切さに気付くことができるようにする。

(2) 全体計画(別葉)における本主題の位置付け

〈本校の道徳教育の目標〉
よいことと悪いこととの区別を主体的に判断し、生命ある全てのものを大切にしようとする子供を育てる。
〈重点目標(低学年)〉
うそやごまかしをしないで明るい心で楽しくすることの大切さを知り、正直で素直に伸び伸びと生活できる態度を育てる。
〈子供の実態〉
友達の大切さを理解しながらも、時に自己中心的な考えによって、相手の気持ちを理解したり、異なる考えを受け入れたりすることが難しいときがある。

教科等	主な学習活動	主な教師の手立て
学級活動 10月「学級の問題を考えよう」	学級の友達と学校生活を送る上で、今の自分や学級全体の課題、大切に感じていることを考える。	㊸ みんなと仲よく、楽しい心で過ごすために、自己や学級のことを見つめ、課題や大切に感じていることを話し合うことで、「自分の問い」を見いだすことができるようにする。
学習のテーマ	身近な友達と仲よく、楽しい心で過ごすために大切なことは、何だろう。	

【道徳科】

10月「うそばかりしていると」 (A 正直, 誠実) 『ひつじかいのこども』	日頃の不誠実な言動が、周囲の不信を招くことに気付くことで、正直で誠実な生活をしようとするものの大切さについて考える。	㊸ 2回、3回とうそをつかれ続けたときの大人たちの気持ちを実感できるよう、動作化することで、テーマや本時における「自分の問い」への気付きを見いだすことができるようにする。
10月「だめなことはだめだよ」 (A 善悪の判断, 自律, 自由と責任) 『にんじんばたけで』	周囲に合わせて自分もよくないことをしようと思う心の弱さに自我関与する。その思いが、他者の迷惑に繋がることに気付くことで、正しいと思うことを進んで行うことの大切さについて考える。	㊸ 心の弱さに負けそうになるうさぎたちの気持ちや、よいと思ったことを進んでできたときのうさぎたちの気持ちを実感できるよう、役割演技をすることで、テーマや本時における「自分の問い」への気付きを広げることができるようにする。
11月「じぶんのよさ」 (A 個性の伸長) 『あなたって どんな人?』	得意、不得意など、人には様々な面があることに気付くことで、自己や友達の特徴を理解し、一人一人のよさや個性、大切さについて考える。	㊸ 一人一人のよさを理解し合うことで、仲が深まることに気付くことができるよう、学び合いを行うことで、テーマや本時における「自分の問い」への気付きを広げることができるようにする。
11月「みんなとなかよく」 (B 友情, 信頼) 『二つの ことり』	周囲に同調した心の弱さに自我関与する。その後、友達のことを考えて行動した際の心地よさに気付くことで、友達と仲よくすることや大切にすることの喜びについて考える。	㊸ 教師がウェビングマップを用いて、前時までの振り返りを行うことで、本主題と他の内容項目との関連を意識できるようにする。また、全体での学び合いを通し、本時で新たに気付いた考えや大切にしたいことを書き加えることで、テーマや本時における「自分の問い」への気付きを広げることができるようにする。

学級活動 12月「2学期の反省」	友達と学びの成果を共有することで、互いによりよい生活を実践していこうとする新たな気持ちをもつことができるようにする。	㊸ 全体を振り返ることで、自己を見つめ、友達の考えのよさに気付くことができるようにする。また、それを価値付けることで、今後へつなげる実践意欲や態度を高めることができるようにする。
---------------------	--	---

【他教科等との関連】

9月 国語科「やくそく」(物語を通して友情について考える)
10月 体育科「体育科学習発表会練習」(友達と協力して活動する)
11月 生活科「あきをたのしもう」(友達と仲よく秋を見付ける)

【家庭や地域社会との連携】

学習活動の様子や子供のワークシート、発言などを学級通信で知らせ、子供が学んだことを保護者に価値付けてもらう。

4 子供の実態について

実態調査の結果から、本学級の子供は、友達と活動することのよさや楽しさを感じながら、誰とも日常的に仲よく関わったり、時に助け合ったりしていることが分かった。しかし、その一方で自分の思いややりたいことだけを優先して、友達の気持ちを考えず自己中心的に行動したり、困っている友達に配慮できなかったりすることも多い様子が見られる。例えば、友達と遊ぶ際、一緒に楽しく遊べるように配慮しなかったり、昼休みにすることがなくて一人残っている友達に声を掛けなかったりすることがある。そうした行動が友達を不快な思いにさせたり、悲しませたりしていることを理解していない子供が多い。そこで本時では、自分だけでなく相手の思いを捉えながら、友達の大切さについて考えていく。そして、より一層仲よくしようとする道徳的心情を育てる。

5 教材について

みそさざいは、他の鳥たちとともに、やまがらの誕生日会とうぐいすの音楽会の練習とに誘われていた。やまがらの家は山奥の寂しい場所にあり、うぐいすの家は近くの明るい場所にあった。みそさざいは、どちらに行くか迷ったが、他の鳥たちと共にうぐいすの家へ行った。しかし、みそさざいはやまがらのことが気になり、全く楽しめない。そこで、うぐいすの家をそっと抜け出し、やまがらの家へと向かう。みそさざいが誕生日を祝うと、やまがらは目に涙を浮かべて喜ぶという話である。やまがらの涙を見た際のみそさざいの気持ちを捉えることで、やまがらの喜びが自分の喜びにも繋がることを味わい、友達と仲よくすることのよさを感じ得ることができるように本教材を活用する。

6 指導に当たって

(1) 「必要性」を実感する教師の手立て

「気付く」過程では、前時までの振り返りを行うことで、学習テーマに関する学びを全体で共有する。その際、教師がウェビングマップを黒板に提示することで、前時までの三つの内容項目が、学習テーマと関連していることを子供が確認できるようにする。また本時に入る際、友達と仲よく過ごしている様子とそうでない様子とを大型モニターに提示することで、子供が学習テーマと本時の内容とを関連付けることができるようにする。そして、「友達といつでも仲よくすることができるかな。」と問いかけ、「心の綱引き」で一人一人の考えを確認した後、「友達といつでも仲よくするために、大切なことは何だろう。」「みんなともっと仲よくするためには、どんな気持ちが大切だろう。」などの「自分の問い」を見いだし、問題意識をもつことができるようにする。

(2) 「自律性」を実感する教師の手立て

「見つめる」過程の前半では、教材を一読して概要をつかんだ後、どちらの家に行くかで迷うみそさざいの気持ちに自我関与するために、ペープサートを見せ、なぜ迷ったのかを考える。その際、環境がよくて近い所にあり、他の鳥たちも選択したうぐいすの家へ行く判断をした心の弱さにも気付くことができるようにする。次に、その場を楽しめないみそさざいの気持ちに再び自我関与し、後悔の念とやまがらの家へそっと向かおうとする気持ちについて考えることができるようにする。最後に、みそさざいが来たことで涙を流したやまがらの気持ちと、それを見たみそさざいの気持ちとを役割演技を通して考えることで、二羽の喜びや友達の大切さに気付くことができるようにする。

(3) 「関係性」を実感する教師の手立て

「見つめる」過程の後半では、本時と前時までの学習を関連付けながら、「自分の問い」についての考えを見いだすために、ウェビングマップを活用する。まず、うぐいすの家をそっと抜け出してやまがらの家へと向かうみそさざいの気持ちを「善悪の判断、自律、自由と責任」の学習を想起しながら考える。その際、「やまがらの家へと向かったのは、気楽な気持ちからだったのかな。自分が正しいと思うことをしたいという強い気持ちからだったのかな。」と問う。次に、みそさざいが会いに来てくれた姿を見たやまがらの気持ちを「個性の伸長」の学習を想起しながら考える。その際、「『誕生日おめでとう』と言われたやまがらは、友達のどんなよさに気付いたかな。」と問うことで、二羽の気持ちを多面的・多角的に考え、テーマと関連付けることができるようにする。

(4) 「有用性」を実感する教師の手立て

「深める」、「高める」過程では、「自分の問い」を振り返りながら自己を見つめ、本時で考えたことや新たに気付いたことなどを発表する。そして、再度「心の綱引き」で自分の考えを表出することで、導入時と終末時の自他の変容に気付くことができるようにする。そして、変容した理由を発表し、それを教師が価値付ける。最後に、導入時に示した遊びに誘われずにさびしそうにしている子供のイラストを見せ、どんな風に関わっていきたいか考える。また、学級 みんなが仲よく関わっている様子を大型モニターで見ることで、実生活において進んで友達と仲よく関わろうとする道徳的心情や判断力を育むことができるようにする。

7 本 時

- (1) ねらい 友達のことを考えて行動したときに、お互いの気持ちが通い合うよさを理解することで、友達を大切にする喜びに気づき、仲よくしようとする道徳的心情や判断力を育む。
- (2) 展 開 ☐ 教師の言葉掛け ☐ 子供の反応 ☒ 重点評価項目

過程(分)	主な学習活動と予想される子供の反応	主な教師の手立て	
気 付 く (8)	1 第1～3時までの振り返りを確認した後、友情に関する学級全体の考えを確認し合うことで、問題意識をもつ。【「自分の問い」づくりタイム】 ときどき友達と仲よくできないこともあるようですが、自分のことを見つめ、今の考えを「心の綱引き」と発表で教えてください。 - ときどき言い合いになって、けんかをすることがある。 - いやなことをされたら、自分もいやなことをしてしまう。 - 仲よしがよいと分かっているけれど、難しいときもある。	㊸ テーマに関する前時までの学習を振り返り、ウェビングマップに表したものを提示する。また、「心の綱引き」で考えを表出することで、友情に関する自己の価値観や課題に気づき、問題意識を高めることができるようにする。 ㊸ それぞれが「自分の問い」を見いだすことで、主体的に活動できるようにする。	「必 要 性」
見 つ め る (22)	2 友情に対する本時のめあてを見いだす。 友達ともっと仲よくするには、どんな気持ちが必要だろう。 3 教材「二羽のことり」を一読し、三つの場面を見つめながら、友達と仲よくすることについての自分の考えや大切にしたいことを話し合う。【「自分の問い」追究・交流タイム】 (1) やまがらと、うぐいすのどちらの家へ行くかで迷うみそさざいの気持ちなどを、理由とともに考える。【人間理解】【価値理解】 みそさざいは、どんな気持ちから、どちらの家へ行こうかと迷っていたのでしょう。 - やまがらさんの家は暗い場所にあるから、やめようかな。 - みんなは、うぐいすさんの家へ行ったから、ぼくもそうしようかな。でも、やまがらさんが悲しむかもしれない。 迷いながらうぐいすの家に行ったみそさざいや、一人で友達を待っているやまがらは、どんな気持ちでしょう。 - やまがらさんが気になって、もやもやする。(みそさざい) - せっかくの誕生日なのに、一人でさみしい。(やまがら) (2) うぐいすの家にみんなという際に、全く楽しめずにいるみそさざいの気持ちを、理由とともに考える。【人間理解】【他者理解】 みそさざいは、なぜうぐいすの家で全然楽しめなかったのでしょう。 - やまがらさんが、今頃どうしているかなと気になったから。 - せっかくの誕生日会に誰も来ないので、やまがらさんが悲しんでいるかもしれないから。かわいそうだと思ったから。 (3) やまがらの家へ行ったことで、涙を浮かべて喜んだやまがらの様子を見たみそさざいの気持ちを考える。【価値理解】【他者理解】 やまがらの涙を見て、みそさざいはどんなことを考えたでしょう。 - 喜んでもらえて嬉しい。ほっとした。遅れてごめんね。 - これからは、友達のことをもっと大切にしていきたいな。 - 友達の気持ちを考えて行動したら、お互いによい気持ちになった。 - うぐいすさんや、そこにいたみんなにも声を掛け、練習の後に全員でやまがらさんの所へ行けば、もっとよかったかな。	㊸ 一読後、ペープサートで場面状況を押さえ、どちらの家へ行くかで迷うみそさざいの気持ちや、その後うぐいすの家に行き、もやもやするみそさざいの気持ちに自我関与して考えることで、友達の気持ちよりも周りに合わせた心の弱さや、後悔する気持ち、友達を思う気持ちに気づき、人間理解や価値理解を深めることができるようにする。 ㊸ 二羽の気持ちに役割演技で自我関与して考える。その際、前時までの学習を想起し、「善悪の判断、自律、自由と責任」と関連付け、みそさざいが正しいと思うことを行ったことで、よい気持ちになったことに気付くことができるようにする。また、「個性の伸長」と関連付け、やまがらがみそさざいの優しさに触れたことで、二羽の仲が深まったことに気付くことができるようにする。そして、友達を大切にするよさをウェビングマップで確認することで、テーマと関連付けることができるようにする。 ㊸ 友達を大切にすることのよさについて気付いたことを学び合いで共有することで、二羽の小鳥だけでなく、他の小鳥とも仲よくできる方法などについても見いだすことができるようにする。 ㊸ 「自分の問い」に対して新たに気付いたこと等を発表することで、主題に関する自分の考えを深めることができるようにする。 ◆ 主題について、「自分の問い」とテーマを関連付け、自分との関わりで考えたり、学び合いを通して多面的・多角的に考えを深めたりできたか。【発言・ワークシート】	「自 律 性」
深 め る (7)	4 友情に対して、本時で新たに気付いたことや今後大切にしたいことを振り返る。【「自分の問い」振り返りタイム】 - 友達のことを大切に思い行動できたら、友達が喜んでくれるし、それを見た自分もうれしくなることに気が付いた。 - 友達の気持ちを考えたら、友達がしてほしいことやうれしいと思うことに気付くことができると思った。 - これからは、友達の気持ちを考えて行動したいと思った。		「関 係 性」
高 め る (8)	5 本時の学習を実生活とつなげ、これからの生活において友達とどのように関わっていきたいか考える。 最初に見せた場面に対して、今はどう考えますか。「心の綱引き」で気持ちを示した後、自分の考えを紹介してください。 - これからは、自分が楽しければよいという気持ちだけではなく、いっしょに遊ぶ友達の気持ちも考えて行動したい。 - 友達が楽しい気持ちでいると、自分もよい気持ちになれるので、友達が困っていたら助けたいと思う。 - みんなで仲よく過ごせるようにいろいろ考えると、もっとみんなと仲よくできると思う。	㊸ 友達を大切にすることや友達と仲よくすることについて再考することで、よさを実感し、実生活における道徳的心情や判断力を育むことができるようにする。	「有 用 性」

第1学年 道徳科 授業デザインシート（テーマ）

テーマ	身近な友達と仲よく、楽しい心で過ごすために大切なこととは、何だろう。
本テーマで育成を目指す「未来の創り手に求められる資質・能力」	
問題発見力	道徳的価値に関する学習課題を自分事として捉えながら、自己の価値観や課題などを見つめることで、「自分の問い」を明らかにする力
判断・形成力	「自分の問い」をもち、様々な場面における登場人物の気持ちを精査して判断し、よりよい行動を実行できた際の気持ちを捉え、自分の考えを形成する力
創造力	自分を教材の登場人物に置き換えて捉えたり、他の内容項目と関連付けたりして、「自分の問い」への新たな考えを創り出す力
振り返る力	学習を通して学び得た「自分の問い」への考えや、大切にしたい気持ちを見いだし、これからの学習や実生活に生かそうとする力

本テーマの授業デザイン

本テーマで育成を目指す資質・能力と関わりのある学習活動において、以下のような手立てを行い、その有効性を検証しながら授業をデザインすることにした。

【第1時】主題名：うそばかりついていると(A 正直, 誠実) 教材名：ひつじかいのこども
ねらい：日頃の不誠実な言動が、周囲の不信を招くことに気付く活動を通して、正直で誠実な生活しようとする心情を育てる。

判断・形成力	【目指す子供の姿】 羊飼いの子供にうそをつかれ続けた大人たちの気持ちを動作化によって自分との関わりで捉えることで、うそをつかず、周囲と誠実に関わることの大切さについて多面的・多角的に気付いている。	【「自律性」を高める教師の手立て】 2回、3回とうそをつかれ続けたときの大人たちの気持ちを実感できるよう、動作化することで、テーマや本時における「自分の問い」への気付きを見いだすことができるようにする。	【子供の反応】
	【「自律性」を実感する教師の手立ての改善点】		

【第2時】主題名：だめなことはだめだよ(A 善悪の判断, 自律, 自由と責任) 教材名：にんじんばたけで
ねらい：してはいけないことをみんながやっているから、自分もしてよいと考えることの間違いに気付く、よいことと悪いことの区別をし、よいことを進んで行おうとする心情を育てる。

判断・形成力	【目指す子供の姿】 入ってはいけない畑で誰かが人参を食べたのを知り、自分も食べようと判断しそうな気持ちと、それを踏み止まる気持ちを自分との関わりで捉え、「よいと思ったことをするとすがすがしい。」など多面的・多角的に新たな考えを創り出している。	【「自律性」を高める教師の手立て】 心の弱さに負けそうになるうさぎたちの気持ちや、よいと思ったことを進んでできたときのうさぎたちの気持ちを実感できるよう、役割演技をすることで、テーマや本時における「自分の問い」への気付きを広げることができるようにする。	【子供の反応】
	【「自律性」を実感する教師の手立ての改善点】		

【第3時】主題名：じぶんのよさ(A 個性の伸長) 教材名：あなたってどんな人？
ねらい：人には誰しも様々なよさがあることに気付くことで、そのよさを大切にしようとする心情を育てる。

創造力	【目指す子供の姿】 登場人物たちは、それぞれ苦手なことがあっても、よさも同時にあることを自分との関わりで捉えることで、自分や周囲の人にも様々なよさがあることに多面的・多角的に気付き、お互いのよさを大切にしようと考えている。	【「関係性」を高める教師の手立て】 一人一人のよさを理解し合うことで、仲が深まることに気付くことができるよう、学び合いを行うことで、テーマや本時における「自分の問い」への気付きを広げることができるようにする。	【子供の反応】
	【「関係性」を実感する教師の手立ての改善点】		

【第4時】主題名：みんなとなかよく(B 友情, 信頼) 教材名：二わのことり
ねらい：友達のことを思って行動しようしたり、友達を大切にすることの喜びに気付いたりすることで、友達と仲よくしようとする心情を育てる。

創造力	【目指す子供の姿】 みそさざいの気持ちをページサートや役割演技を通して自分との関わりで捉えたり、前時の学びと関連付けて多面的・多角的に考えたりして、テーマや「自分の問い」に対する考えを見いだし、これからの実生活へと生かそうとしている。	【「関係性」を高める教師の手立て】 教師がウェビングマップを用いて、前時までの振り返りを行い、本主題と他の内容項目との関連を意識できるようにする。また、全体での学び合いを通し、本時で新たに気付いた考えや大切にしたい気持ちを書き加えることで、テーマや本時における「自分の問い」への気付きを広げることができるようにする。	【子供の反応】
	【「関係性」を実感する教師の手立ての改善点】		